

受講番号 19026 学校名 高知北高等学校・通信制 氏名 田淵久弘

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 新入生 生徒数 105 名
科目名 英語 I 単位数(授業時数) 3 時間 使用教科書名 All Aboard! English I

クラスの様子・特徴

五十代、四十代の生徒も何人かいる。そうした先輩の生徒は一生懸命に取り組んでいる。一方二十代前後の生徒はかなりの多い。

問題の確定

限られた授業での達成感、また生涯学習の観点からも、発音記号を読めて、辞書を引くことが出来るようにさせる。

予備調査

A 授業の観察

基本的知識がない生徒が多い。また高齢者もいて英語をすっかり忘れていた。しかし基礎的な英語をものにしたいという意欲を感じる。

B 生徒による授業評価

英語が読めないが、ゆっくりと発音されると読めるという生徒が多いた。年配の方には、発音記号の読み方が役に立つという意見が多い。

C 学力データ

基本的知識がない生徒が多い。

リサーチ・クエスチョン

高齢者もいる生徒たちに、生涯学習的な英語を、少ない授業でもたせるにはどうすればいいか？

仮説・実践・検証

仮説1

授業時間がきわめて少なく、通信制はレポート中心である。だがそのため、逆に少ない授業で達成感をもってもらえる授業にしなければならない。しかしアルファベットもしらない生徒がいる中では、教科書とは別の教材がある。高齢者の生徒もいるため、生涯学習的なものを用意図から、発音記号が読める、ということに重点を置くことにした。

実践1

教科書の単語の発音が読めるようにするために、発音記号ばかりの練習問題を出す。そこで各発音の仕方を、実際に教師が発音して、生徒に繰り返させる。特に聞きとりにくい発音は、カタカナで書いてその徹底を図る。カタカナは英語学習ではいいことではないが、アルファベットを読めない生徒のことを考えると、やむをえない手段である。そのあとまた教師側が繰り返しその発音をして、あとをついてこらせるようにした。

検証1

発音記号を読ませるだけでは効果が弱く感じられて、発音記号を書いて覚えるように指導した。その際発音を頭の中でいいので、発音しながら書くように指導。こうして生徒は発音記号になれて、違和感を覚えなくなった。通常は単語を書いて覚えさせるのだが、発音記号を書いて覚えさせることで、英語の発音への大切さをわかってもらおうと意図した。生徒からの感想で、ある成果はあがったように思える。

仮説2

教科書の英文を繰り返し暗記させることで、英語に対する慣れを持ってもらえるだろう。

実践2

この英文はこういう日本語にあたる、ということを知ってもらおう。次に教師側がそれを何度もゆっくりと読むことにした。生徒がついて読めるようにさせるためである。am, isについても、ゆっくりと読む必要がある。その発音を知らない生徒が多いた。繰り返し読んだあと、生徒があとをついて読む作業に入る。そして徹底的にその英文を暗記させる。

検証2

英文をゆっくり何度も発音し、生徒にあとをついて読ませることで、たどたどしいながらも、なんとか読めるようになった。アルファベットが書けない、読めない生徒の学習レベルを考えると、ある程度の成果は出たのではと思う。

仮説3

文法の説明は最低限に絞る。文法で英語がいやになる生徒が多いたのためである。

実践3

たとえば現在完了形は時間の概念が日本語と違ってはっきりしていることから説明。過去、現在、未来をはっきりとさせようとして、完了形を教える。ただ深入りはしない。あくまでこの英文はこの日本語だということから初めて、英語に対する恐怖心、アレルギーを取り除くようにすることが大切と考える。

検証3

文法はごく基本的なことしかやらず、ほとんど避けたといっているかもしれない。たとえば関係詞では、日本語は、(美しい空)となるところ、英語では、(空which美しい)となり、語順の違いをわからせるという具合に進めた。生徒に理解しやすい形で進めていったが、大切なことは英語に嫌気をもたせないということだと思う。生徒の授業感想を読むにつけ、その意味でうまくいったと思われる。

研究の成果

授業時間がきわめて少なく、通信制はレポート中心である。そのため少ない授業で達成感をもってもらえる授業にしなければならない。しかもアルファベットもしらない生徒がいる。その通信制の特殊事情をかんがみて、仮説をたててやってきた。特に高齢者の生徒もいるため、生涯学習的なものを用意図から、発音記号が読める、ということに重点を置くことにした。そのため、発音記号を書かせる練習問題を作った。生徒からは辞書を引けはじめたという感想が返って、生徒に達成感を与えることができたと思う。また生徒が本格的に英語を学習したい気持ちをもったときに、基本的なことを学習してもらったという思いはある。

今後の授業改善の課題

通信制では授業に限られ、少ない授業でいかに達成感を持ってもらい、かつ基本的なことを理解してもらえるかがポイントである。辞書の単語が読めた喜びを書いてくれた生徒の感想から、発音記号をみて読めるようにさせることは意義あることと思う。ただ教科書をを進める必要から、どれくらいの割合でこの発音のみに時間を与えるかが、課題であろう。そしてレポート提出に、どうやって発音を勉強した成果を効果的に取り入れるかが課題であると思う。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

088-832-2182

電子メール